

様式1（視察用）

会派行政視察報告書

令和6年度会派 名取維新 の行政視察研修を、令和6年7月30日(火)から8月1日(木)の2泊3日にて執り行いましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

令和7年3月28日

名取市議会議長 様

会派名 名取維新

代表 今野 慎介 

記

- 1 期 日 令和6年7月30日(火)～8月1日(木)
- 2 参加人員 1名 議員 今野 慎介
- 3 視 察 先 (1) 兵庫県伊丹市
(2) 京都府福知山市
(3) 京都府宮津市
- 4 行 程 表 別紙のとおり
- 5 調査事項 別紙のとおり
- 6 所 感 別紙のとおり

令和6年 青雲倶楽部・名取維新視察研修行程表

日程	行程	視察先及び視察項目	宿泊
令和 6年 7/30 (火)	仙台空港(7:35発) ^{JAL2200便} ⇒⇒⇒ (8:55着)伊丹空港(9:24発) ^{伊丹市営バス} ⇒⇒⇒ (9:38着)宮ノ前 ^{街並み視察・昼食・徒歩} …………… 13:30~15:00 伊丹市議会（市立伊丹ミュージアム図書館『ことば蔵』視察） …………… ^{徒歩} 宮ノ前(15:20発) ^{伊丹市営バス} ⇒⇒⇒ (15:39着)伊丹空港(16:12発) ^{バス伊丹空港線} ⇒⇒⇒ (17:37着)福知山駅 ^{徒歩} …… 福知山市内(宿泊)	兵庫県伊丹市議会 所在地 伊丹市千僧1-1 電話番号 072-783-1344(事務局) 調査項目 1 伊丹市立図書館ことば蔵について	福知山アークホテル 所在地 福知山市末広町1-24 電話番号 0773-24-3333
7/31 (水)	ホテル…………… 10:00~11:30 ^{徒歩} 福知山市議会視察…………… 福知山駅(13:13発) ^{丹鉄宮福線} ⇒⇒⇒ (14:02着)宮津駅(14:10発) ^{丹鉄宮舞・宮豊線} ⇒⇒⇒ (14:16着)天橋立駅…………… 宮津市内(宿泊)	京都府福知山市議会 所在地 福知山市字内記13-1 電話番号 0773-24-7031(事務局) 調査項目 1 A I ・ I C Tを活用したスマートシティ構想について	オーベルジュ天橋立 所在地 宮津市文珠91-1 電話番号 0772-22-0650
8/1 (木)	ホテル ^{徒歩} …… 天橋立駅(8:46発) ^{丹鉄宮舞・宮豊線} ⇒⇒⇒ (8:51着)宮津駅…………… ^{徒歩} 10:00~11:30 宮津市議会視察 …………… ^{昼食・街並み視察} 宮津駅(15:32発) ^{丹鉄宮福線} ⇒⇒⇒ (16:26着) 福知山駅(16:50発) ^{バス・伊丹空港線} ⇒⇒⇒ (18:15着)伊丹空港(19:55発) ^{JAL2215便} ⇒⇒⇒ (21:10着)仙台空港	京都府宮津市議会 所在地 宮津市字柳縄手345-1 電話番号 0772-45-1639(事務局) 調査項目 1 観光戦略について	

名取市議会 名取維新 視察及び研修報告書

視察場所 兵庫県伊丹市

視察日時 令和6年7月30日(火) 13:30～15:00

視察項目 伊丹市立図書館ことば蔵について

対応者	伊丹市議会 副議長	竹村 和人 氏
	伊丹市立図書館 本館ことば蔵	
	館長 司書	山田 正人 氏
	伊丹市 市民自治部 まちづくり室	
	まちづくり推進課 主査	水野 和珠 氏
	伊丹市議会事務局 主任	松原 雄大 氏
	伊丹市議会事務局 主任	武田 真帆 氏

報告者 今野 慎介

1 伊丹市の概要

伊丹市は兵庫県南東部にあり、周囲は兵庫県尼崎・西宮・宝塚・川西各市や大阪府の豊中・池田両市と接している、人口195,222名/世帯数84,341世帯の市である。
また、大阪国際空港（伊丹空港）があるまちとしても知られており、直行便の市バスは駅から空港までの所要時間が20分と空に近い市でもあります。

{伊丹市立図書館本館ことば蔵の概要}

施設概要：所在地は伊丹市中心市街地に所在（伊丹市宮ノ前3-7-4）。

構造：地下1階、地上4階建て。延べ面積6,149㎡。

事業費：2,312,000千円。

蔵書数：37.8万冊（内、開架：19.2万冊）＊市内全館：64.8万冊。

来館者数：343,350人（747,514人）＊令和5年度ことば蔵統計データ

貸出者数：246,194人（533,931人）

貸出冊数：649,180冊（1,474,240冊）

これまでの歴史

昭和26年（1951年）4月 伊丹市図書館条例制定公布

10月 伊丹市図書館（初代）開館

昭和47年（1972年）	7月	伊丹市立図書館条例制定公布 伊丹市立図書館（2代目）開館
平成4年（1992年）	4月	南分館開館（複合施設）
平成16年（2004年）	4月	北分館開館（複合施設）
平成23年（2011年）	3月	西分館開館（イオン伊丹昆陽店内）
	12月	図書新館の愛称が「ことば蔵」に決定
平成24年（2012年）	7月	伊丹市立図書館（3代目）本館 ことば蔵 開館
平成28年（2016年）	5月	神津分館開館（複合施設）
	11月	ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2016大賞受賞
令和2年（2020年）	2月	「図書館を使った調べる学習コンクール」で総務大臣賞を受賞

*ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2016大賞受賞について

「図書館において、学びや遊びに関する創造的な活動を市民と共に実践している」点を高く評価されて受賞した。

*「図書館を使った調べる学習コンクール」総務大臣賞受賞について

コンクールが郷土への関心と愛着の増進を目的として開催されている点や、市内施設や企業との連携が、伊丹の歴史文化への関心を広めたものとなっており、図書館活用への想いと企業の地域・社会貢献への想いが合致したものとなっている点を評価、受賞。

2 実施経緯

{ことば蔵のコンセプト}

ことばを介した読書と歴史、誰もが気軽に訪れることができる「公園のような図書館」。

・図書機能 ・交流機能 ・情報発信機能



*図書館本館 ことば蔵正面入り口と閲覧フロア

{組織形態について}

館長 1 名

- ・ 図書事業 庶務担当 主査 3 人
事業担当 主査 1 人（司書）、事務職員 3 人（司書 2 人）、
会計年度任用職員 19 人（14 人司書）

- ・ 交流事業 事務職員 2 人、会計年度任用職員 2 人

- ・ その他（施設管理等） 会計年度任用職員 2 人

本館計 33 人

- ・ 西分室 会計年度任用職員 7 人（司書 5 人）

{ことば蔵の導入機能}

- ・ 自動貸出機 利用者が自分で図書の貸出処理できるシステム。
- ・ IC タグ 蔵書管理をバーコードから変更。貸出一括処理が可能。
- ・ 自動書庫 閉架書庫の蔵書を自動的に管理。（25 万冊程度まで収納可）
- ・ 不正持出防止ゲート 貸出手続を行っていない図書の持ち出しをチェック。



* 自動書庫（25 万冊程度まで収納可）

3 活動内容について

{ことば蔵のサービス・運営}

- ・ インターネット閲覧用端末

開放端末 10 台導入。利用者自らがネットを利用した資料検索やデータベース検索。
（新聞記事、法令判例等）が可能。

＊インターネットサービスについて

令和4年（2022年）7月1日より、本の貸出状況や延長・予約などができる「インターネットサービス」を全年齢で使えるように変更。

新機能として「読者チャレンジ機能」が加わり、目標読書冊数と期間を登録し、達成度をネット上で管理可能。

・ヤングアダルトコーナー（YA コーナー）

市内高校生参画によるコーナー運営を実施。司書とは異なる視点で中高生利用者にアピールし、利用者拡大を目指す。

・伊丹作家コーナー

田辺聖子氏（元名誉館長）、宮本輝氏の著書、原稿等を展示。

・交流機能

市内学校、地域団体、ボランティア等との共同事業の発案・実施に取り組み、市民が「いつでも・気軽に」事業に参画できる施設を目指す「交流フロア運営会議」の設置。



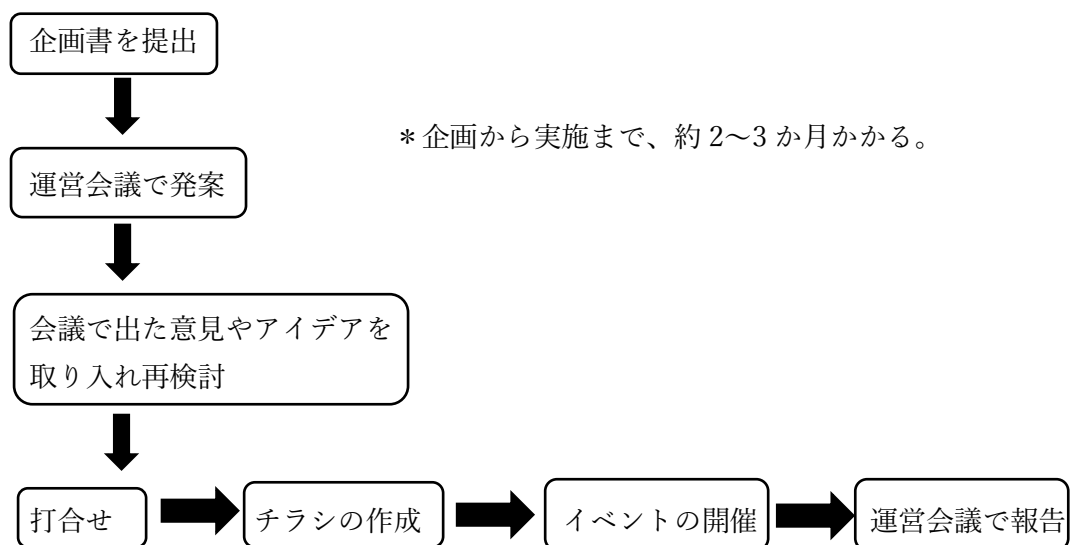
＊フロアには各コーナーが設置されていて、手に取りやすい工夫が施されている。

{交流事業について}

「交流フロア運営会議」とは

図書館1階交流フロアを活用した、市民企画のイベントの実現に向けて、どうすれば実現するかをみんなで考える会議。 毎月第一水曜日 18：30 から開催。

イベント実現までの流れ



* 企画から実施まで、約 2～3 か月かかる。

- (1) 運営会議で企画書をもとに発案。参加者からの前向きなアイデアを取り入れながら、より魅力的な企画に修正する。
- (2) 実施に向けて内容等を打合せ、チラシを作成。
- (3) イベントの実施。
- (4) 翌月の運営会議で報告することとしている。

* これまでの実現イベント

- ・ビブリオバトル
- ・ことば蔵で風流（ぶり）を
- ・キッズ蔵 JAL・ANA study tour（市内企業との連携）
- ・文学館 講演会（大学との連携）
- ・宮前まつり バルーンショー開催（地域との連携）
- ・ラジオ体操&えいが蔵（夏休み毎日イベント）
- ・カエボン部活動（紹介するおすすめ本）
- ・三余学寮
- ・インターン生の企画（大学との連携）

etc.



質 疑：

Q：コロナ前とコロナ後とでは地域のコミュニティが取れていない事案が様々起きているが、コロナ前とコロナ後とで特徴的な事案があったのか。また、コロナ以前に戻している事はあるか。

A：実際コロナ前とコロナ後を比べて来館者数もイベントに来る人数も減っている。
コロナ後に行っているイベントも5つ中4つしか復活出来ていない。理由はコロナ期間中に中心となって動いてくれていた市民の状況が変わり、時間を取りにくくなっていて復活するにあたり以前通りにはいかない現状で違う方法や、やり方を変えていかなければ、以前の人数には届かないと思っている。

Q：活動するにあたり、ボランティアだけではなく、たくさんの市民を巻き込んで活動しているのか。実際どのような工夫をされているのか。

A：協力してくれている市民の皆様は「何かがやりたい」と言った強い思いがあり、ご自身がやりたいからやると言う思いをサポートしている立場で動いている。ボランティアの人達は一つの目的に対して図書館に集まっている感じ。市民の方々のそれぞれの野望と当館のシステム・条件とがマッチしたらこの場所を活用していく上でしっかりと打合せと聞き取りをし、個々に対してその人に合ったサポートをしてイベント開催までもって行く工夫をしている。

Q：ボランティアは、固定された人たちなのか。

A：半分くらいは固定されていて、半分の方はふらっと立ち寄った人とか何かイベントが来ると聞いて来た人達。有難いことに毎回新しい人たちが来てくれているが、ボランティアは完全に固定化になってしまっているのも、SNS等で新しいボランティアを広げていく努力をしなければいけないと思っている。

Q：運営費用は実際どのようにされているのか。

A：交流事業の予算のほとんどはチラシの印刷費となっている。それと交流事業に係る2名の人件費で回しているが、例えば「ものづくり」系のイベントならば基本的に全て企画者がものを準備する事になっている。もし材料費が必要ならば材料費のみ参加者から徴収し、その分だけを企画者に渡す様にして絶対に利益が出ないようにしている。

Q：電子図書においてタブレットは各家庭が用意するものなのか、貸出し用を用意するのか。

A：10月1日オープンで、「こども電子図書館」というものを考えている。まだ、考えている段階ではあるが小中学校で配布されているタブレットにIDを付与してしようさせる方法を検討している。

Q：紙の新書に関して、どのような入れ方をされているのか。

A：利用者の希望を加味しながら、本館と分館で選定会議を開き司書が選書している。

所感：

「公園のような図書館」これを、ことば蔵のコンセプトとして掲げて、いろいろな手法で時には実験的なトライ＆エラーを行っているのが、伊丹市立図書館である。

スペースを活用し、ボランティアの協力のもと参加者を限定しない自由で様々なアイデアを取り入れ、実行に移す様は図書館という昔ながらの概念を一つ越えたものになっており地域コミュニティの活性化に大いに貢献していると考えられる。

図書機能も充実しており、ロボット機能搭載の大規模閉架書庫の設置で利用者のスムーズな利用と職員の負担を大きく軽減されている。

また、市独自の学生向け推薦図書等のスペースを設けるなど、人と人の繋がりにも注力して
いて、次世代の図書館の在り方を掲示しているような、そんな魅力が詰まった図書館でした。

本市の図書館において、スペースの活用方法、更なるコミュニティの活性化、図書機能の今後の展開を考える事にあたり、とても参考になる視察となりました。



*兵庫県伊丹市 伊丹市立図書館ことば蔵
の視察風景

名取市議会 名取維新 視察及び研修報告書

視察場所 京都府福知山市

視察日時 令和 6 年 7 月 31 日（水） 10：00～11：30

視察項目 AI・ICT を活用したスマートシティ構想について

対応者 福知山市議会 議長 田渕 裕二 氏
福知山市議会事務局 事務局長 伊藤 信夫 氏
福知山市役所
市民総務部 次長兼デジタル政策推進課長 藤田 正美 氏
市民総務部 デジタル政策推進課
ICT 推進係 課長補佐兼係長 大江 伸哉 氏
市民総務部 デジタル政策推進課
吉田 豊 氏

報告者 今野 慎介

1 福知山市の概要

戦国時代、明智光秀によって福知山城の縄張りが築かれた。江戸時代になると福知山藩の居城となる。昭和 12 年に京都市・伏見市（現 伏見区）に続いて京都府で三番目に市制施行した。廃藩置県以前の丹波国と丹後国にまたがる。

平成 18 年 1 月に 1 市 3 町の合併により新しい福知山市がスタートした。京都市から 60 km、大阪市から 70 km の位置にあり国道 9 号線、舞鶴若狭自動車道。JR 山陰本線、福知山線及び京都丹後鉄道宮福線などの北近畿の交通の要衝となっている。

市街地を一級河川である由良川が流れているが、大雨時に洪水・水害の発生が多い。人口 74,907 人（令和 6 年 7 月 1 日）、面積 552.54 km²。

2 調査事項説明

「AI・ICT を活用したスマートシティ構想について」

福知山市では令和 3 年度に策定した「スマートシティふくちやま推進計画」（計画期間：

令和４年度～令和８年度）に沿って、地域課題を解決する「スマートシティ構想」を推進している。

{事業実施に至るまでの経緯}

① 国の動向

- ・ Society5.0 の提唱 スマートシティへの取組推進（H28.1 月）
- ・ 官民データ活用推進基本計画の策定（H29.5 月）
- ・ 自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画の策定（R2.12 月）
- ・ デジタル田園都市国家構想（R3.11 月）

② 京都府の動向

- ・ 京都府スマート社会推進計画の策定（R2.3 月）

③ 新型コロナウイルス感染症

- ・ 新しい生活様式の実践

④ 福知山市の状況

- ・ 大雨による水害への対応
- ・ 福知山市公立大学情報学部新設

これらの状況を踏まえ平成 31 年に策定した「第 1 次福知山市情報システム最適化計画」を見直し、「スマートシティふくちやま推進計画（第 2 次情報システム最適化計画）」を策定することにした。本計画は、R4 年度策定「まちづくり構想 福知山」を上位計画とし、関連計画との整合性を図りながら地域の諸課題の解決と利便性・効率化が向上し発展し続けるまちづくりを推進するために ICT 等を活用する部分の基本的な方向性を明らかにするもので、福知山市版「官民データ活用推進計画」「自治体 DX 推進計画」に位置づけている。

{事業内容及び成果}

① 基本理念

「いつでもどこでも」をキーワードに、未来へつなぐ ICT 等を活用したスマートなまちづくり

② 基本方針

- ・ 先駆者を育成！未来を支える人づくり
- ・ ICT 等を活用した安心安全都市ふくちやの推進
- ・ ICT 等とともに発展し続けるまちづくり
情報産業の育成・定着。データサイエンスの促進。
- ・ ICT 等を活用した市民サービスの向上

③ 重点項目

ア 防災分野

- ・消防団との情報共有など（タブレット端末貸与）
オンライン会議及び資料電子化の標準、災害情報のオンライン報告
- ・防災アプリ（福知山防災）の導入
76,000 人中、21,500 ダウンロード
- ・ローカルエリア情報の発信（自治会毎）
浸水センサーの設置
- ・災害時ドローン活用協定の提携

イ ハイブリット窓口

- ・オンライン申請活用拡大
- ・手数料、施設利用や物販へのキャッシュレス決済導入
5 万時間の短縮
- ・市民課へ書かない申請端末導入
- ・地域包括ケア推進課でのアウトリーチによるオンライン相談

④ ターゲット世代は子育て世代

- ・GIGA スクール構想
タブレット端末の活用（AIドリル）、教育情報のデータベース化
- ・保護者への配布物の電子化と情報共有
- ・電子図書館の導入
- ・ごみ分別アプリ
大学と連携して開発

⑤ 分野ごとの取組

ア 教育

- ・福知山公立大学連携による
小中学校プログラミング教室
シニアワークカレッジ
高齢者向けスマホ講座→R3・4・5 の 3 年間 年間 30 回

イ 防災

- ・統合型 GIS を活用した災害状況の共有
- ・災害時ケアプラン作成支援システムの導入

ウ モビリティ

- ・市バスロケーションシステムの検討

エ 産業

- ・オープンデータの推進
- ・社会人向けデータサイエンス講座

- ・デジタル地域通貨（ふくほ）の導入

オ スマートアグリ

- ・情報発信アプリ実証
- ・有害鳥獣可視化システム導入
- ・スマート農機器導入支援

カ 医療・福祉

- ・安心安全見守りセンターの利用
- ・健康アプリ（KENPOS）の導入
6,500 人がダウンロード

キ 公園

- ・キャッシュレス決済導入
- ・オンライン予約の検討

ク 観光

- ・オンラインバスツアーの催行（森の京都 DMO）
- ・鉄道にかかる体験型コンテンツ（フクレル会館）

ケ 行政

⑥ 推進体制

- ・IT 推進本部の元に推進チームを立上
- ・IT 有識者の活用
コーディネーターを加入させる
- ・福知山公立大学や京都府と連携

{課題及び今後の取り組みについて}

① 課題について

ア 申請手続きのオンライン化と利用率

アンケートや参加申込等簡易な手続きのオンライン化は進んだが、厳格な本人確認を必要とする行政サービス利用に関する手続きのオンライン化が遅延。

原因：添付書類や関連手続きが多く手続きの説明が必要。現在 5%の利用率。

イ 民間企業との連携

各分野の取組には、民間企業との協働や実証実験も見込んでいたが、全国的なスマートシティの取り組みの中で本市は人口規模や地形的な条件など、試験導入の条件に合わないものが多い。

ウ 費用対効果

すべてに財政処置が出来るものではない為、費用対効果を考慮して実施が進まない施策もある。

エ 職員の業務負荷

庁内の事務に時間がとられ、新たな施策を検討する余裕がない場合もある。
優先は庁内の DX を進めることが必要である。

オ データの集積・分析・連携

データ連携基盤はより広域での整備が有効である。

- ・ KENPOS 参加者のデータ蓄積と健康行動の分析
- ・ ふくぽ利用者と加盟店決済情報の分析

{今後の取組}

- ・ 生成 AI 活用の検討
- ・ 窓口におけるバックヤード効率化と連動したフロンヤード見直し
- ・ DX 推進員の育成と内部業務の見直し

質 疑：

Q：防災アプリの利用者が多いがその要因は。

A：自治会（町内会）は地域防災計画を作成する必要がある。その計画を作成するにあたり、担当課が町内会に赴き、防災・避難等の説明と共に防災アプリも紹介してダウンロードをお願いしている。アプリを活用することにより、安心安全に繋がる情報が入手できるため利用者が多いと考えられる。

Q：統合型 GIS を活用した被害状況などの把握について教えてほしい。

A：例として、消防団の方が地域の浸水被害状況等の写真を撮り、そのデータを消防本部またはデジタル政策推進課に送付し、その写真を確認のうえ地図に掲載する。
掲載することにより市民との情報共有化が図られるが、プライバシー等の問題があるので自動での掲載ではない。

Q：外部への情報発信と内部のみと判断する基準はどの様に判断しているのか。

A：プライバシー等の問題が無ければ浸水地区の状況等を公表しているが、プライバシー等で公表できなくても、内部データの蓄積ができる事が意義ある事と捉えている。

現在、どの時点で事前に通行止めなどの情報を発信するか判断時期が課題になっている。

Q：消防団へのタブレット端末の貸与について教えてほしい。

A：本市には消防団が 27 分団あり、その分団長に 1 台を貸与している。

Q：有害鳥獣可視化システムの監視カメラの配置はどの様に配置されているのか。

A：カメラの台数は把握していないが、市内の 3 か所をモデル事業として取り組んでいる。

Q：猟友会等との情報共有の体制を教えてほしい。

A：可視化システム事業は、熊・イノシシが出た等の情報発信ではなく、電気柵の設置方法や檻の最適な設置個所などの情報を発信している。

Q：DX 推進員の育成方法はどう行っているのか。

A: IT 専門家と委託契約をし、研修を行って職員の育成に努めている。

毎年 10 名、5 年間で 50 名の育成を考えている。

Q: DX を推進するにあたって各課との連携はどの様になっているのか。

A: 各課から DX 推進員が研修に参加しているので、研修時に幅広く意見交換が行われている。この意見交換を活発に行うことにより連携が図られていると認識をしている。

Q: 保護者への配布物電子化について、概要を教えてください。

A: 学校と連絡ができるアプリがある。子供ごとに保護者だけが入れるものがあり、「学校だより」や「保険だより」も見られるようになっている。警報が出た場合、休校や下校時間の変更等の連絡通知、また子供が休む連絡等のこともできるようになっている。

Q: 福知山公立大学と連携して開発する計画は具体的にはどの様になるのか。

A: 大学に生成 AI で著名な先生がいて、具体的な計画は現在ないが、大学側でもサークルが立ち上がっており一緒になって考えて取り組めるものが出てくると考えている。

所 感:

福知山市の「スマートシティ構想」は地域の特性を考慮し推進していると感じた。

特に市内に流れている一級河川である由良川の水害・洪水など水災に悩まされている

福知山市では、防災関連強化のためのデジタル化推進が特化している様に感じる。

現在全国的に見ても、市から住民への災害等の情報発信が主流だが福知山市の防災アプリは地域住民からの情報も取り入れられる体制になっているので、迅速な情報を発信する状況下では大きな利点と言える。プライバシーの問題等は当然あるが、この双方向型を採用しているところに他市とは違う今後の展開が興味深い。

また、福知山公立大学との連携による生成 AI の活用で市民へのサービス向上に繋がる施策を今後推進していくと思われるが、本市においても参考すべき点があるものと捉える。DX 事業の推進事態、国の基本方針を基に講じていくものだが、福知山市の「スマートシティ構想」を参考に本市の市民へのサービスに足りていない部門を洗い出し、市に提言提案していこうと思う。



* 福知山市役所にて。



* 調査事項説明風景。

名取市議会 名取維新 視察及び研修報告書

視察場所 京都府宮津市

視察日時 令和6年8月1日（木） 10:00～11:30

視察項目 観光戦略について

対応者 宮津市議会 議長 松浦 登美義 氏
宮津市市議会事務局
議事調査課長 井上 晴登 氏
宮津市産業経済部
商工観光課 課長 藤原 健二 氏
宮津市産業経済部商工観光課
観光係 観光戦略担当課長 青木 学 氏
宮津市産業経済部商工観光課
観光係 係長 森山 領介 氏

報告者 今野 慎介

1 宮津市の概要

京都府の北西部、丹後半島の付け根に位置する宮津市は青い海と緑の山々に囲まれた自然豊かなところに位置している。宮津市のシンボリック存在である「天橋立」は日本海の宮津湾に位置し、陸奥の「松島」、安芸の「宮島」とともに日本三景とされており、通年世界中から観光客が訪れている。

北近畿地方の観光拠点であり、年間約300万人の観光客が訪れている。

現在、日本遺産に登録されている北前船、城下町（細川忠興、細川ガラシャゆかり）の利点を活かし滞在型観光地へ移行を進めている。

特産品は、安寿みかん、オリーブ、コギク、丹後コシヒカリ、あさり、とり貝、岩ガキ、ジャコ、黒ちくわ、智恵の餅、宮津焼等がある。

面積：172.74km²。人口：16,151人。市木：くろまつ。市花：みつばつつじ。

2 宮津市観光戦略策定

{宮津市の観光の現状}

- ・宮津市経済における観光産業の占める割合は7.7%となっており、全国的にみても割合率は高くなっている。(全国平均割合2.0%)
- ・観光滞在は「日帰り観光」80%、「宿泊観光」20%の割合になっており、通過型観光地の傾向になっている。
- ・宮津市の観光消費単価は令和元年で3,396円、宿泊単価が9,292円であるのに対し令和3年時で8,850円、宿泊単価は23,547円まで上がっている。(市独自の新基準)
- ・宮津市観光で重視した順位は、1. 景色、2. 景観、3 温泉、4. グルメとなっている。
- ・天橋立の認知度は

「訪問意向は全国の観光地平均より高いが、再訪問意向・推奨意向は低い。顧客満足度の低さがその主要因。一方で、宿泊客では満足度が向上。とりわけ『地域の料理・食材』で顕著にスコアが上昇。地域全体として食（食材・料理）の質的向上・ブランド化を図ることにより宿泊率・満足度の向上が期待できる。」

- ・アンケートで不満の声が多かったのは、駐車場（料金が低い・少ない）、飲食店（少ない）、交通（周遊しづらい）、観光スポットが少ない、の4点である。

*現状把握する為、宮津市でアンケート調査し可視化して、弱みと強みを明確にして戦略を考える手法をとっている。

{目指す姿とキャッチコピーの考え方}

「目指す姿」

- ・訪れた人々が多くの感動に出会い、羽を休める場所として独自の地位を確立する。

「キャッチコピーの考え方」

- ・かつて平安の都人が憧れた丹後の海を「海の京都」全体で訴求しつつ、天橋立が持つ「天＝天上世界」とのつながり感を当地独自のイメージと捉え、宮津ならではの体験（食・文化・歴史・温泉）がもたらす心地よさをかけ合わせたキャッチコピーにした。

キャッチコピー

京都が憧れた海がある。

天にも昇る、旅ごころ。 宮津天橋立

{重点事項}

滞在時間を延ばすことにより、観光消費額の向上、顧客満足度の向上に取り組む。

{KPI（重要達成度指数）}

令和7年（2025年）において

重点1 観光消費額 令和元年109億円 ⇒ 125億円

重点2 顧客満足度 令和3年「大変満足」33% ⇒ 40%

- ・入込客数 令和元年 321 万人 ⇒ 350 万人
- ・宿泊客数 令和元年 64.9 万人 ⇒ 80 万人
- ・外国人宿泊客数 令和元年 5.4 万人 ⇒ 10 万人

{役割分担の明確化}

・観光事業者の役割

来訪者の満足度と消費額の向上に向けて、宮津市の魅力を最大限活かした高付加価値なサービスを提供し、中長期的な視点での取り組みを行う。

・市民の役割

地域づくりの主演として、魅力的なまちづくりを心がけながら、住むまちを知り、誇りともてなしの心をもってその魅力を来訪者に発信する。

・行政の役割（宮津市）

客観的な視点で観光戦略の方向性を示し、観光がもたらす経済・文化・定住、コミュニティ活動の活性化など地域波及効果を生み出すとともに、市内での連携を図りながら主導する。

また、観光振興に関わる財源確保に努めながら、観光事業者などが実施する誘客促進の支援や来訪者を迎えるための公共インフラの整備などを行う。

・観光戦略促進チームの役割

観光関連事業者や地域の代表者から形成し、観光事業者を取りまとめ、行政との施策の調整を行いながら、主体的に観光戦略を推進するとともに、持続的な観光地域づくりに向けた PDCA サイクルを廻す役割を担う。



* 宮津市に位置する日本三景「天橋立」と周遊エリア

3 宮津市観光戦略

{観光戦略のガイドラインと取り組み}

戦略1 国内・インバウンド共に「海の京都」エリア全体で集客し、その中心地としての「宮津」への立寄り客数の底上げを目指す。

・施策1 集客・マーケティングの強化

- ・顧客管理システム（CRM）を活用した戦略的な情報発信とロイヤルカスタマーづくり。
- ・旅マエ・旅ナカで体験コンテンツが販売できる仕組みづくり。
- ・コンテンツ、旅行商品の販路拡大。
- ・プロモーション事業の強化。

・施策2 インバウンド事業の推進

- ・欧米豪東アジアを中心とした海外プロモーション事業の連携。
- ・インバウンド受け入れ態勢の整備。
- ・体験型観光の充実。

戦略2 宮津の観光消費単価・顧客満足度の向上を目指す。

① 目的地の複数化で滞在時間を延ばす。

・施策1 既存観光地の認知と来訪意向の向上

- ・天橋立周辺の歴史・ストーリーの活用による府中・文珠の立ち寄り強化・高付加価値化。
- ・宮津市街地の歴史・ストーリーの活用
- ・由良地区の歴史・ストーリーの活用
- ・女性層向けの観光サービスの開拓と育成
- ・アウトドア資源の活用
- ・ナイトコンテンツの造成
- ・周遊観光をスムーズにするための交通事業者との連携強化

・施策2 関係人口化・ファン化を見据えた新たな観光資源の開拓

- ・ファミリー、若い女性向けに地域密着型の密度の高い体験型宿泊を育成
- ・上宮津、由良など地域独自の観光コンテンツ造成
- ・ジビエ、トレイル、歴史、鉄道など特定ファン層のコンテンツ造成

② 食の質向上と高付加価値化による飲食率・宿泊率の向上を目指す

・施策 食のブランド強化とガストロノミーツーリズムの推進

- ・季節毎の旬の食材を認知、ブランド化し、何回も訪問する理由を創出
- ・大和学園との連携事業（共通メニュー開発）
- ・食材料理で市内の飲食機械を増やす。宿泊への引き上げ

③ 点在する温泉をブランド化し、高付加価値化による宿泊単価・宿泊率の向上を目指す

・施策 4大温泉のブランド化

- ・宿泊施設の高付加価値化による宿泊単価、宿泊率の向上
- ・温泉情緒のある外湯施設の整備、地域一体となった宿泊施設の照明整備
- ・宿泊単価の向上に伴う従業員の正規化、給与アップ
- ・温泉地をつなぐ湯めぐり事業の推進

戦略3 世界から選ばれるSDGsな観光地域の実現を目指す

- ・施策1 持続可能なマネジメントを支える体制・人づくり
 - ・頑張る事業者を応援する仕組みづくり
 - ・新規参入する事業者を受け入れる仕組みづくり
 - ・持続可能な観光の推進を担う人材育成支援
 - ・観光振興に資する財源確保
- ・施策2 SDGsな観光地としてのブランド化
 - ・「GSTC」から認証を受けた国際基準の取得
 - ・ごみ減量化など事業者、観光客一体となった環境にやさしい行動のルールづくり
 - ・市内総生産における観光GDPの拡大

4 スケジュールと戦略の進め方

{スケジュール}

- ・中長期的な視点を持ちながら、単年の実施計画を策定

{戦略の進め方}

- ・ガイドラン.役割分担に基づき、観光戦略推進チームが事務局となり、出来る事から具体的な取り組みを推進する。コロナ禍対策の国内旅行中心の観光 V 字回復事業も継続的に実施する。
- * 具体的には、観光 DX の活用（収集したデータ活用・レベニューマネジメント分析・データ化して経営者に発信）
- * 体験プログラム

質 疑：

Q：七市町村で設立した海の京都 DMO が、うまく機能している理由は何か。

A：DMO 設立前に京都府では観光客が京都市のみならず府内全域を周遊してほしいと考えていた。当時の副知事が中心となって働きかけを行った。宮津市においても行政のみならず、観光に携わる方、銀行関連、商工会などあらゆる分野の方々に DMO に参画していただいた。また、七市町村で定期的に意見交換をして現状を把握している点が理由と考えている。

Q：グーグルビジネスを活用した世界に向けて行っている情報発信の具体的な例があれば教

えていただきたい。

A：グーグルマップを活用したきっかけは、世界中に多くのユーザーがいる事。日本語で登録しても観覧したユーザーの言語に変換されてインバウンド向けにも発信できるツールとして完成されていて、無料で使用できる事が活用している理由。

Q：女性層向けの観光サービスの開拓と育成に関してのみ有志と記載があるが、情報発信する立場にいる女性が有志で立ち上がっているのか。

A：実態は立ち上がっていない。現状、観光会議を開いても男性参加者が多く、女性目線までは行き届いていない。今後、女性の集まりを作り積極的な意見交換の場を設け施策に反映させていく取り組みの途中段階である。

Q：観光戦略を立てるにあたり現状の分析など丁寧に行っているが、分析結果を基にグーグルビジネスにより事業者の育成レベニューマネージメントを行っているが、取り組みの成果などはあるか。

A：4年前に宮津市に来た当初、観光の現状を把握するデータの蓄積は少なかった。観光業者のこれまでの経験を踏まえた情報を収集し、データの可視化を目指した。事業者側が分かっている事でもデータを可視化することによって問題点が明確になり改善を行っていった。当初関心が低い事業者もいたが、可視化することで前向きになった事業者が増えた実感はある。コロナ禍で従業員確保、収益確保の為ではあったが宿泊施設の部屋数を減らしラグジュアリー化を進めた結果、宿泊単価が上がっている事で手ごたえを感じている。

Q：たくさんの外国人観光客が来ている中で文化の違いなども含め観光戦略を立てるにあたり、現在把握している問題点は有るか。

A：オーバーツーリズムまではいかないが、宮津市から伊根町までの移動手段がバスしかなく、地元民の利用に支障が出ている。これに伴いDMOが観光庁の事業採択を受け船での輸送実証実験を開始している。

Q：今後更に観光客が増えてくる事にあたり、対策を講じているものはあるか。

A：ここは、台湾から来る観光客のリピーターが多く、感覚的にははあるが漢字を見てある程度理解は出来ていると推測するが、欧米からの観光客は英語圏なので案内やガイド等の多言語化を進めていく必要があると考える。これらに対して対策を協議する観光戦略チームがあり、協議して対策を図っている。

Q：京都府を訪れる観光客は多いが、その観光客を宮津市まで足を延ばしてもらう策などがあれば伺いたい。

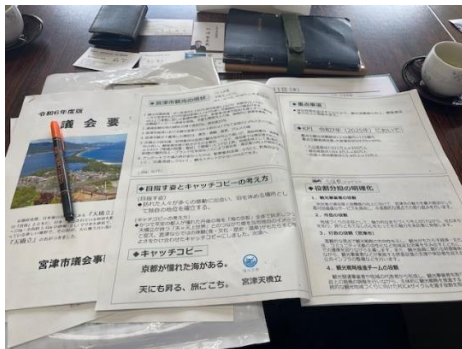
A：観光会社に天橋立をルートにしている観光プランがある国がある。観光プランに組み込まれていない場合、こちらからプロモーションをかけいく。例えば現地のインフルエンサーの活用、または外国の観光会社を招待し実際観光を体験してもらい観光ルートのプラン提案等を行い、少しでも多くの観光客が京都府から足を運んでもらえる様な取り組みを講じている。

所 感：

日本三景の一つ「天橋立」を観光の柱として観光戦略を立てている宮津市。世界的にも有名な観光地であるが、同じ府内にある京都市の年間観光者数と比較しても来訪者数は京都市から、中々足を運ぶまでには至っていない厳しい状況にある。そこで、宮津市は観光戦略を策定し、観光関連事業者や地域が持続的な地域づくりに向けた考え方・方向性を共有して、お互いの役割や推進体制を明確化し、一丸となって取り組む施策を行っている。「データの見える化」は継続してアンケート等の実施を行っており、年々変化する観光客ニーズに上手くマッチングしている点から見ても、観光戦略に有効な取り組みだと感じた。

宮津市の置かれている状況と本市の現状を比較すると、本市は観光スポットで劣る事は否めない。しかし日本三景「松島」、「秋保温泉郷」、東北の中心と称される「仙台」に入る窓口の一つでもある「仙台空港」が本市にある状況を最大限活かして観光戦略を考えるのにまだまだチャンスがあるものと捉える。

仙南4市9町と観光事業者で構成している「宮城創生 DMO」との更なる連携や意見交換を活発に展開し、本市における様々なインフラ整備の問題点、長所、短所の洗いだしを行い本市の交流人口の拡大・発展に寄付できる提言を今後していきたい。



* 宮津市役所にて 視察風景